

経営比較分析表（平成28年度決算）

福井県 若狭町

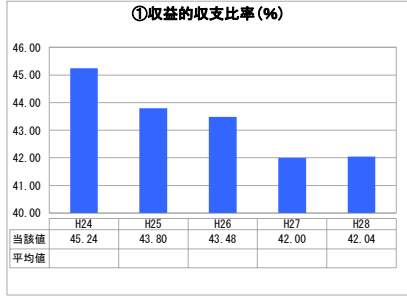
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	41.53	100.00	3,780

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,466	178.49	86.65
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,378	2.27	2,809.69

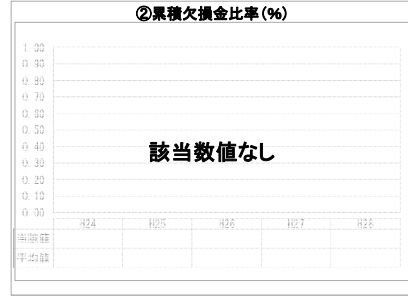
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



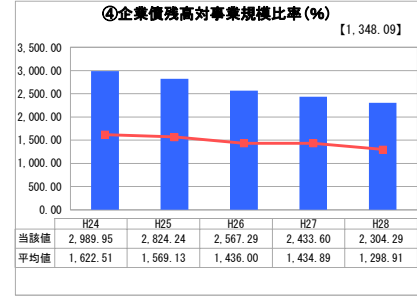
「単年度の収支」



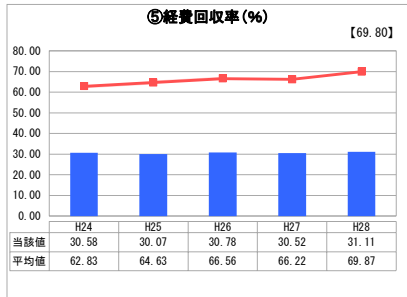
「累積欠損」



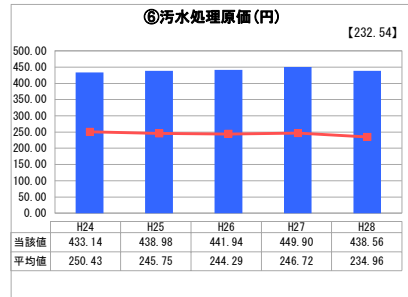
「支払能力」



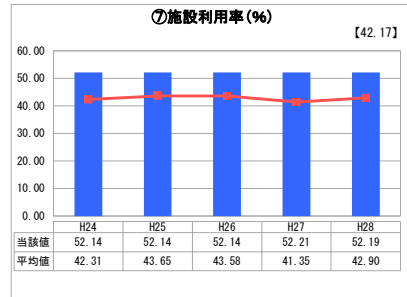
「債務残高」



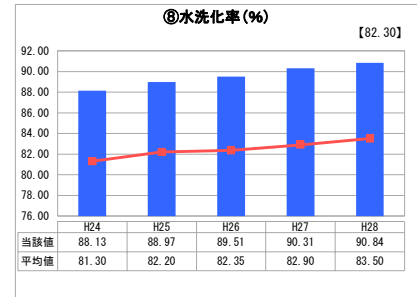
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

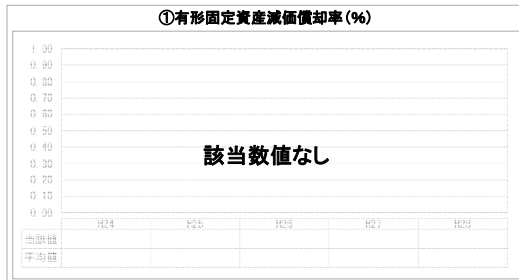


「施設の効率性」

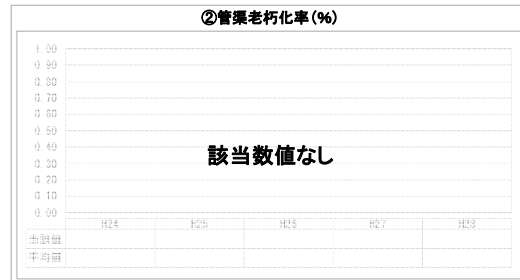


「使用料対象の捕捉」

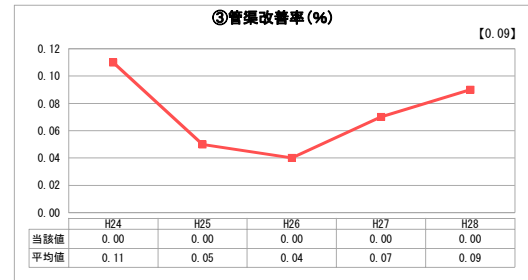
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率、⑤経費回収率、⑥汚水処理原価は、ここ数年の電気料金の値上げの影響により、収支が悪化している。経費を削減できる箇所を洗い出し、収支の向上に努める。又、新規加入促進を図り、使用料収入の増加に努める。地方債の償還が進み元金の比率が増加したことにより、収益的収支比率が低下している。現状は一般会計の繰入金に依存している状態である。

④企業債残高対事業規模比率は、特定環境保全公共下水道事業の整備は完了しており、現在企業債の新規借り入れの予定はないため、類似団体数値に近づいていくと考えられる。

⑦施設利用率、⑧水洗化率は、類似団体と比較し共に高い数値となっているため、残りの余地は少ないが、さらなる向上を図りたい。

2. 老朽化の状況について

当町の特定環境公共下水道は4地区に分かれており、施設の供用開始年度は平成9年から平成19年となっている。

最も年数が経過した管渠で24年経過している。耐用年数を経過した管渠は無いため更新は必要になっていないが、耐用年数50年の更新時期をふまえ、更新計画を検討していく必要がある。

全体総括

現在は類似団体と比較しても高めの使用料金設定となっているが、類似団体、近隣団体の動向に注意し、適正な料金にしていく必要がある。

又、類似団体と比較すると経費回収率が低いため、新規加入促進による使用料収入の増加と、経費削減により経費回収率をあげていく必要がある。

当町の特定環境保全公共下水道は、4箇所の処理場が稼働しているため、経費がかかる原因となっている。

平成29年度より全体計画の見直し、ストックマネジメント計画策定、及び事業計画変更に着手した。

長期的には施設の統合を検討する必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。